

持続可能な開発目標 (SDGs) 推進円卓会議
(令和6年10月31日開催 第19回会合)

Japan Youth Platform for Sustainability 共同事務局長
本行 紅美子

1) ポストSDGsの国際的議論をリードするために我が国が強調すべき分野・メッセージ

- SDGsの基本原則である「誰一人取り残さない」という理念の強化
 - 人間の安全保障を基盤に、国際課題に横断的に対応していく必要性
 - 脆弱な立場にある人々の対応をより重視
- ユースの意味のある参画の重要性
 - 9月に開催された未来サミットの前イベントであるAction Daysはユースが主導することの意義が話し合われた
 - 会議へのユースの出席自体が会議主催者のアピールやプロモーションに使われ、ユースに意見が実際には政策に反映されていないという問題がある
 - 全世界的に見ると総人口に対してユースの占める割合は増加している
 - 日本のユースが政策決定の場へはあまり参加できていない現状
 - こども家庭庁による調査では、政府の審議会や懇談会において委員を務める人のうち、30代以下の人の割合が1%台(10代はいない)
 - 少子高齢化が加速する日本においてユースの声を重視することができれば、他の国に先駆けた良い先例となりうる
- 強調すべき分野・メッセージの策定にあたってはSDGs実施指針に関するパートナーシップ会議のように、広く意見を収集する機会を設けることも大切

VNR構成案に関して

- 前回のVNRをうけての振り返りがあると良いと感じた
 - 特に前回のVNRで示された「今後の方向性(進め方)」に対する評価があるべき

2) 持続可能な経済・社会の実現につながるSDGs理解の深化

- 自分事としてとらえることの大切
 - SDGsアクションプラン、市民社会によるボトムアッププラン等の活用
 - 地域視点から全国へ、そして海外(国際)へ
- ESD教育の活用
 - 環境教育、主権者教育、包括的性教育の普及
 - 家庭の経済的状況がこどもの進路選択に与える影響も考慮する必要

3) 国内外へのSDGs広報について

- 広報対象者に応じて広報手段を使い分ける
 - 国際会議の場で誰がどのようなメッセージを発信するか